



明日のなめがた

Namegata District General Hospital

専従感染管理担当看護師の役割について



看護師 高橋 将

当院では、4月より感染防止対策加算1として400点、感染防止対策地域連携加算として100点、合計500点の診療報酬を受けています。施設基準の一つとして、医師または看護師が専従で感染管理業務に携わることが求められており、当院では看護師の私が担当させていただいております。

施設基準では、「イ 5年以上感染管理に従事した経験を有し、感染管理に係る適切な研修を修了した専任の看護師」と記載があります。この「感染に係る適切な研修」というのは、日本看護協会の感染症看護専門看護師または認定看護師教育専門課程修了者（一般的には感染管理認定看護師）と東京医療保健大学の感染制御実践看護学講座修了者が該当します。いずれも臨地実習を含めた半年以上の教育カリキュラムが立てられ、文献検索・講読、疫学・統計、医療関連感染サーベイランスなど多岐に渡る学習をしています。それらのことから私たち感染管理を担う者が求められている役割は、ここで学んだ知識や技術を実践することで患者が医療関連感染の被害を被ることなく安心して療養できる環境を整備し、医療関連感染で本来不必要な医療資源を費やすことがないような体制作りだと私は思います。

そして、その役割を実現していくために必要なこととして、

1. 疫学的・学術的に効果が認められた知識や技術を理解し対策を立案・実施・評価する
2. コンサルテーションを実施し、問題解決へ向けて相談・調整する
3. 患者ならびに病院に関わる全ての人々が安全にかつ基本的権利を尊重した医療を収受・提供できるように設備・施設の調整を推進する
4. 近隣地域の保健・医療について感染管理の面で協力体制を構築する

以上の4つを挙げることができません。まず1については、慣習的に行ってきたことを変更し、論理的な思考に基づき実践していくことで、「慣れ」や「思い込み」からくる医療関連感染のリスクを低減できます。

次に2については、相談者が持つ不安や疑問点などを相談者自身が解決できるように働きかけることで、考える力（批判的吟味）を体得し前述の1を有効に実践できるようになります。次に3については、対策を勧めていくと設備面において限界が出てきます。



茨城厚生連6病院感染対策院内ラウンド風景

そういったときに必要な対策がとれるように病院管理者などに働きかける役割を持つています。

最後に4については、多剤耐性アシネトバクター、風疹、ノロウイルス、腸管出血性大腸菌など様々な病原微生物についてニュースでみかけます。感染症というのは病院だけで起きるものではありません。病院でも起きますが地域でも起きます。地域で感染し病院を受診する。このような場合に自分の施設だけが正しい対策を実施するだけで十分といえるでしょうか。私は、地域全体として対策を実施していかななくてはならないと思います。地域で協力し合うことで早期に対応できればそもそも流行しません。地域での感染症拡散防止は病院内の感染症数の減少にもつながれると考えられます。



鉾田保健所管内院内感染対策地域ネットワーク連絡会風景

今回は詳しく触れませんが、地域での感染対策として当院は、「鉾田保健所管内院内感染対策地域ネットワーク連絡会」に事務局として参加しています。この他にも、茨城厚生連の6病院感染対策委員会では感染対策に関する院内ラウンドも行っています。最後になりますが、感染制御は一人ではできません。10人中9人ができていても残り1人ができていないと、どんなに素晴らしい計画でもそれは破綻し制御できなくなります。「私一人くらい・・・」とは思わず、ご助力をお願いいたします。

病院の理念

1. 患者の人権尊重 我々は患者の人権を尊重し、患者中心の医療を実践する。
2. 医療の質の向上 我々は医療の質の向上に努め、全人的医療を目指す。
3. 農協精神の遵守 我々は協同の精神を尊重し、地域住民の保険・医療・福祉に努める。
4. 医療記録の適正管理 我々は医療記録を適正に管理し、原則として開示する。
5. 権利擁護とプライバシーの保護 我々は患者の権利を擁護し、プライバシーの保護に努める。

茨城県救急医療 功労賞受賞



田畑病院長と森田看護部長が、平成24年度茨城県救急医療功労賞を受けられました。

医師学会手記

2011年11月～2012年6月

科名	医師	学会名	時期	手記
整形外科	清水 顕	第48回 日本リハビリテーション医学会	2011.11	「Impairmentに切り込むリハを目指して」をメインテーマに幕張メッセで開催された。時代は診療科を問わず早期にリハビリテーションの積極的介入が重要視されている。当院でもリハビリテーション科のさらなる活躍に期待したいと考えた。
整形外科	清水 顕	第22回 日本臨床スポーツ医学会 学術集会	2011.11	「競技復帰に向けて」をメインテーマに青森市で開催された。各スポーツ競技に関わるさまざまな研究や症例報告がなされた。今回は「大学競泳選手の腰椎椎間板変性の縦断的調査」という発表の共同演者での参加であった。
脳外科	山田 健嗣	第27回 日本脳神経血管内治療 学会学術総会	2011.11	第27回日本脳神経血管内治療学会学術総会に参加してきました。血管内治療に用いる器具（カテーテル・コイル・ステント）は日進月歩で進化しています。最近では脳梗塞急性期における血栓除去器具が本邦でも導入され始め、使用報告や成績の発表が多数ありました。当院では血管内治療専門医がいないためまだ導入できていませんが、近い将来は脳卒中治療にかかせない技術になると思われ、習得を目指していきたいと思えます。
眼科	井口 綾	第35回日本眼科手術学会総会	2012.01	加齢黄斑変性の治療戦略と外来硝子体内注射後の眼内炎対処法を勉強してきました。
内科	永山 和宣	第27回 日本環境感染学会	2012.02	院内感染防止は病院全体で取り組むべき問題である。今回は清掃に携わる職員と他職種の連携について、看護師が中心となった活動の試みを発表した。
救急科	小山 完二	第17回 日本集団災害医学会 学術集会	2012.02	災害医療に関する実学的学会である。東日本大震災の医療活動について、1) 情報・通信、2) 急性期後の亜急性期のDMAT活動、3) 放射線災害への対応、などが話題となった。災害医療は平時からのハード・ソフト両面の準備が重要である。
皮膚科	岸本 浩	第27回 日本静脈経腸栄養学会	2012.02	当院NSTからの2題の発表（下記上野、飯田）の共同演者として参加しました。口腔ケアに関する演題は急増しており、トレンドのテーマになった感がありました。
眼科	浅野 宏規	アジア太平洋眼科学会 釜山（韓国）	2012.04	日本未発売の医薬品や、最先端の検査・手術機器について学び、世界の眼科医療の流れをより良く理解しました。また、日本の眼科医療レベルの高さを改めて実感しました。
外科	飯塚 一郎	第112回 日本外科学会定期学術 集会	2012.04	消化管の腹腔鏡手術の現況は、設備のあるところでは日常の手技で、開腹手術と同じ枠で語られています。開腹術もまだまだ標準として行われている感じですので、当分は通常視野と4本の手を使える開腹の利点を生かして侵襲を大きくしないように工夫をしていければと思います。もう一つの注目点は、ERAS (Enhanced Recovery After Surgery) など術前術後管理の改善です。NSTや周術期理学療法が術後回復に大きく寄与する事は確かで、わが病院でもそれを発展させることができると思いました。
脳外科	田畑 均	第32回 脳神経外科コンgres総会	2012.05	急速に進歩した脳神経外科であるが、新たな課題が次々と出てきている。そのような中で、今回のメインテーマは「脳神経外科学の課題」であった。3日目の脳血管障害のセッションに参加した。虚血性脳疾患、脳動脈瘤共に手術、血管内治療が行われているが、治療困難の例があり、課題は多く残っている。
整形外科	亀田 尚徳	第85回 日本整形外科学会	2012.05	主に、人工関節の分野に参加しました。最新の手術技術の知見を得ることができました。また、現在も行なわれている古い手術方法や、人工関節も良い成績であることの報告も多数ありました。今後の診療にいかすべき事項の習得に努めました。
整形外科	清水 顕	第15回 水と健康医学研究会	2012.06	日本水泳連盟の医事部が中心となって行われている「水と健康」に関わる研究会である。今回は3月にジュニアの競泳日本代表に帯同した「2012ジュニアブロック・シンガポール遠征」の報告をした。また、ロンドン五輪に帯同するスタッフから抱負が述べられた。
病理	黒岩 俊彦	第7回日独脳外科会議・ 第63回ドイツ脳外科学会総会	2012.06	ドイツライプツヒヒで合同開催されました。脳梗塞最初期病変である小窩性梗塞について発表しマインツ大学ケムスキー教授他多数と質疑応答をしました。また会議冒頭には上記学会長よりのご依頼で祝賀演奏を日本脳外科学会オーケストラの一員としておこないました。
皮膚科	岸本 浩	第111回 日本皮膚科学会総会	2012.06	ダーモスコピーに関する演題が非常に多く発表されていました。現在私個人としても最も関心のあるテーマであり、このテーマを中心に参加しました。

コメディカル学会発表手記

2011年11月～2012年6月

科名	医師	学会名	時期	手記
看護部	椎名 伸枝	第60回日本農村医学会	2011.11	便の形状を表にした Bristol スケールと、3種類のボールを使い量の目安を統一して、排便スケールを作りポスターにて発表してきました。
看護部	上岡 奈実	第27回 日本環境感染学会学術総会	2012.02	すべての医療職が一同に集う国内唯一の学会に参加し、清掃に携わる職員と他職種の連携について発表し、最新の感染対策や感染に対する知識を学ぶことができました。
検査部	長峯 裕二	第27回 日本環境感染学会学術総会	2012.02	当院で実施している尿道留置カテーテル関連感染対策の取り組みと細菌学的検出結果について発表しました。
検査部	上野 和幸	第27回 日本静脈経腸栄養学会	2012.02	当院で考案した口腔内評価法について発表してきました。フロアから様々なご質問やご意見を頂き、大変勉強になりました。
リハビリテーション部	飯田 響子	第27回 日本静脈経腸栄養学会	2012.02	院内でのオーラルマネージメント普及へのNSTの取り組みについて発表しました。多くの質問を頂き、専門家から助言も受けることができました。
臨床工学部	大内 智之	第87回 医療機器学会大会	2012.06	シンポジウム「医療機器管理を通し安心安全を提供する臨床工学技士」にて当院の医療機器管理部門（透析以外の業務と医療機器の保守管理をする部門）を紹介しました。学会にて模範的な運営管理と評価を頂きました。
臨床工学部	浅野 和志	第57回 日本透析医学会学術集会・総会	2012.06	「当院におけるバスキュラーアクセス管理について」を口演にて発表しました。シャント管理チームでの取り組みやシャントスコア表を用いたシャント管理について発表しました。
看護部	額賀 ゆかり	第57回 日本透析医学会学術集会・総会	2012.06	「腎サポートチームによる災害時に備えた患者教室の開催」というテーマで血液透析患者さま対象に開催した患者教室について発表してきました。

病院をもっと

活用しましょう!!

病院は病気を治すところとみなさん
んは思っているかもしれませんが、それ
が、当然そうではありませんが、それ
以外にもみなさんが健康に過ごせる
ように、予防や生活に関するアドバ
イスを行っているところでもありま
す。病院の世話になんかなりたくな
いでしょうが、病院の世話にならな
いように病院を利用するという変な
話です。

今年私は熱中症の予防と対策の講
演を行いました。その中で、「プロ
のスポーツ選手はどんなに激しいス
ポーツを暑いところでも熱中症
にはならない」というスポーツ医学
の話をしました。つまり暑い中運動
をするからいけないわけではなく、
しっかりとした知識をもって予防を
すれば病気になるという話です。
普段の食生活などの心がけから
予防できる病気もありますし、健診
などでの早期発見で助けることがで
きる病気もあります。残念ながら持
病をかかえてしまった人もうまく病
気とつきあう方法を身につければ病
気の進行も防げますし、より楽しく
生活することもできます。クオリ
ティオブライフ（生活の質QOL）
といえます。

私たち病院スタッフはみなさんが
健康で、元気に過ごせることを願っ
ており、そのためにさまざまな催し
を行っています。今年から看護部が
はじめました健康医学講座は年に数
回行う予定でいますし、講演会は病
院でも地域でも行っています。病院
祭は不定期に行っていますが、その
中でも健康をテーマにさまざまな話
を行っています。糖尿病教室など特
定の疾患に対応するより具体的な話
もあります。参加した方からは好評
をいただいていると自負しております。
案内は院内でのポスターやホー
ムページでご確認ください。それか
ら野菜の直売所もあり、野菜はも
ちろんですが、それ以外にもおい
しいものがたくさんあります。ここ
らもあわせてご利用ください。
このように病院は病気を治すこと
以外に様々なことを行っています。
ぜひこれからも病院をさらに活用し
ていただき、元気に暮らしていきま
しょう。そしてみなさんと病院を盛
り上げていきましょう。みなさんの
積極的な参加が病院をそして地域を
元気にしていくと思います。

小児科部長 太田 哲也

クラブ紹介

ランニングクラブ

—かすみがうらマラソンに参加して—



快晴に恵まれた4月15
日の日曜日、日本で三番
目の参加者数を誇る「第
22回かすみがうらマラソ
ン」に当院スタッフ18名
で参加しました。健康維
持と職員間の交流を目的
に一昨年から参加するよ
うになったこの大会です
が、昨年は東日本大震災
のため残念ながら中止と
なっていました。昨
年のリベンジを果たすた
め、全員で揃いのTシャ
ツの背中に病院の看板を
背負い、さらに広告を兼
ねてのぼりまで作成し、
フル、10マイル（約16キ
ロ）、5キロの各種目で
参加者全員が怪我もなく
無事完走しました。日頃
から地道な練習に励む者、
大会前に慌てて走りこむ
者、練習不足を開き直り
ウェアを新調して格好か

ら入る者、初参加の者も連続出場す
る者も各自が設定した目標タイム目
指し、一人もリタイヤすることなく
苦しくも達成感に溢れるゴールライ
ンを踏むことができました。
大会終了後は田畑病院長のご好意
により競技場脇のイタリアンレスト
ランにてお互いを称えあう慰労会が
開催され、全員が消費した以上のカ
ロリー摂取をし、心もお腹も大満足。
あまりの楽しさに勢いに乗った参加
者たちは秋に開催されるつくばマラ
ソンへの出場を決意して元気に帰路
につきました。
参加したスタッフの中には救護ボ
ランティアランナーとして登録して
いた者や倒れたランナーのそばに偶
然居合わせ救命処置を施した者、
NHKのランニング番組からインタ
ビュー取材を受ける者など地域医療
を担う病院職員としての役目も果す
ことができ、大変有意義な一日とな
りました。
次回の大会はさらに大勢のスタッ
フで参加したいと考えておりますの
で、興味を持たれた方はぜひ一緒
に完走目指してがんばりましょう。
最後になりますが、多くの市民
の方々には沿道より熱い声援をい
ただき本当にありがとうございます。
また、我々の大会参加のため
め当日勤務となつてしまった職員
の方々、大会前よりたくさんの方の
援の言葉を掛けていただいたすべ
ての関係者の方々に参加者一同こ
の紙面を借りて御礼申し上げます。

庶務課 飯村 真樹

震災体験記

副院長 小山 完二

1. 発災

3月11日の午後、私は、水戸のメイカルセンターで会議に出席していた。2時半ごろ休憩となり、関係者10人くらいと食堂で雑談をしていた。テレビの国会中継では、菅総理が献金問題を追及されていた。突然、画面に緊急地震速報のテロップが入った。そしてまもなくガタガタと揺れ出した。揺れがだんだん強くなり、2人の女性従業員が悲鳴を上げた。身の危険を感じ、『机の下に隠れる』と叫んでテーブルの下に隠れた。他の人たちもみな隠れた。頼りない一本足のテーブルだったが、多少の落物は防げそうだった。テーブルの下でも従業員が騒いでいるので、『大丈夫だから。救急隊員と救急の医者がいるから。絶対大丈夫だよ』と声をかけた。コーヒーカーップが床に落ち、天井からパラパラと建材のかけらが降ってきた。

2. 通信

駐車場の時計塔がグラグラ揺れていた。多くの職員が駐車場に避難していた。とりあえず自分の車の中で安全を確保した。ラジオでは、九段会館で怪我人が出て心肺停止となっていると報じていた。大津波警報という聞きなれない警報が出ていた。東京で仕事をしている兄は大丈夫だろうか。情報を共有しよう

3. 移動

午後4時頃、ともかく病院に向き出発した。少しずつ車が流れていた。いたる所で扉や瓦が崩れていた。人々は建物の外に避難していた。すべての信号が消えていた。交差点で交通整理をする若者がいた。涸沼大橋の手前まで来ると消防団が通行止めを行っていた。しかたなく迂回し、渋滞している車の列に並んだ。

渋滞がどこまで続くのか不安だった。道路脇の神社の石の鳥居が崩れていた。小さな集落を抜け、しばらく進むと田んぼの彼方に橋らしきものが見えた。暮れかかった空の下で車が蟻のようにつながっている。橋のたもとから勢いよく水が噴き出している。水道管が破裂したのだろうか。橋と道路の継ぎ目に段差ができていた。市の職員が土嚢を置いて段差を埋めていた。どうやら通れそうだった。ようやく橋を渡ると車は流れ出した。そして銚田の環状道路に

入り再び渋滞した。カスミストアの近くでも橋の前後に段差ができ、緊急で工事が行われていた。電柱が斜めになっていた。余震のたびに車がグラグラ揺れた。DMATの磯山隊員からメールの返事が来た。病院では災害対策本部を立ち上げ、トリアージポストを設置し、藤井先生がトリアージを行っていたと書いてあった。こちらは銚田で渋滞にはまっている、そちらの責任者に伝えてくれと返信した。病院まであと少しというところで、

道路が崩れ通行止めになっていた。引き返して別のルートをとっても通れる補償はない。まあどうにかなるさと脇道に入り、真っ暗な道をそろそろと運転した。知らない農道を何度か曲がり、方向を失いかけたところ、畑の彼方に病院の明かりが見えた。時刻は午後8時を回っていた。あの建物の中で皆が頑張っているのだ。災害とのさらなる闘いが始まるようになっていた。

外来診察表(午前) 平成24年10月1日～
■受付時間(平日)8時30分～11時30分 (土)8時30分～11時00分まで ■毎月第2・4土曜日は休診です

科	診察室	月	火	水	木	金	土
内科	1診	湯原(膠原病)	湯原(膠原病)	湯原(膠原病)	植田(腎臓)	湯原(膠原病)	梅田(膠原病)
	2診	永山(消化器)	森本(腎臓)	星(循環器予約)	儘田(神経)	渥美(循環器予約)	湯原(膠原病)
	3診	酒井(循環器予約)		4のみ松井(予約)			第1.永山(消化器)
	4診	栗田(血液)		永山(消化器予約)	笠井(総合)	笠井(総合)	
	5診			梅田			
小児科	1診	土浦協同病院より	福島		2, 4 福島	土協より(12日・26日)	
	2診	太田	太田	太田	太田	太田	太田
	3診						
外科	1診	滝口	李・飯塚(交替)	飯塚	岡本	岡本	(20日)平沼
	2診	李		李	李	飯塚	飯塚
脳外科	1診	大木	田畑	山田	田畑	田畑	田畑
	2診		大木		山田	大木	
整形	1診	亀田	亀田	亀田	侯木	植村	侯木
	2診	清水	清水	侯木	清水	2診交代制 新患・急患のみ	第1.5清水 第3.亀田
婦人科	1診		大久保			横田	
皮膚科	1診	岸本	岸本	岸本		岸本	岸本
泌尿器科	1診		酒井			酒井	酒井
眼科	1診		浅野	浅野第2・4・5のみ	10:30まで	浅野	浅野
	2診	井口	井口	井口		浅野	井口
耳鼻科	1診		谷		田淵		
ペイン	1診	藤井			藤井		
透視	午前	植田・森本	植田	植田・永井	森本	森本	植田・森本
	午後	森本	森本・斉藤(第2のみ)	植田・永井		森本	永井(第2・4のみ)

外来診察表(午後)

科	診察室	月	火	水	木	金
内科	2診	予約(消化・肝臓)永山			予約(神経)儘田	
	3診		予約(腎臓)植田/腎臓科で診察	予約(肝臓)田沢	予約(腎臓)植田/腎臓科で診察	
	4診	予約(糖尿)植田		予約(消化・肝臓)永山	予約(緩和ケア)外来	
外科	2診					
整形	1診			予約(脊・スポ)第2・4		
眼科	1診	予約のみ	予約のみ	予約のみ	予約のみ	予約のみ
皮膚科	1診		岸本			
耳鼻科	1診		谷		田淵	

午後(一般外来)
(火)皮/14:00~16:00
(木)耳/13:30~15:30

午後(予約)
(水)整/14:00~16:00
脊椎及びスポーツ外来

(小児科)専門外来・乳児健診・予防接種:予約制 ※月・火・木午後の一般外来は13:30~15:30受付

	月			火			水			木			金		
	1診	2診	3診	1診	2診	3診	1診	2診	3診	1診	2診	3診	1診	2診	3診
14時		慢性疾患(太田)		予防接種(予約制)	予防接種(予約制)					2.4乳児健診(太田)	循環器(太田)				
15時		一般外来(太田)		一般外来(福島)						2.4一般外来(福島)	1.3.5一般外来(太田)				
16時		慢性疾患(太田)		予防接種(予約制)	予防接種(予約制)					2.4慢性疾患(福島)	循環器(太田)				

※第2・4木曜日

(内視鏡室)週間予定表

	月		火		水		木		金		土	
午前	外科/李	胃内視鏡/飯塚	内科/永山	胃内視鏡			内科/永山	胃内視鏡	内科/永山	胃内視鏡	外科/李	胃内視鏡
午後	外科/李	大腸内視鏡/飯塚	内科/永山	大腸内視鏡			内科/土浦より	大腸内視鏡				